第1回「新・京都市産業振興ビジョン（仮称）」策定検討委員会
発言要旨の整理

（平成 21 年 11 月 26 日（木） 京都ロイヤルホテル＆スパ）

テーマ	主な発言の概要
京都の産業の現状認識	**●京都の強み** ・京都はものづくりにとどまらず，「物語づくり」ができるところが特長である。京都にはブランド力がある。ブランドを支えている一端には，伝統的なものづくり産業がある。 ・京都市は全国的に見てうらやまれる立場にある。産業界においても技術力があり，金融システムも比較的健全で力強さがある。 **●付加価値やイノベーションを生みだすメカニズムの低下・遅れ** ・日本国民が全体として安いものを嗜好する方向に移っている。企業にとっては，付加価値を生むメカニズムが弱くなっている。 ・知的産業の創出，企業家精神の発露において，京都はケンブリッジに２周，シリコンバレーに４周遅れている。 ・シリコンバレーと比べると，ビジネスの作り方，ビジネスデザインをどう考えるのかというところが違う。日本の産業は，先端産業も伝統産業も「ただモノを売る」やり方が主流である。 ・「ものづくり」というと納品すればそれで終わりだった。しかし，実はその先には縁の市場がある。そういう市場との関わりを視野に入れながら「ものづくり」を議論しなければいけない。 ・京都は多数のベンチャー企業を輩出していると羨ましがられるが，昨今は，新たな企業が生まれてこない。また，最近セカンドステージにステップアップする企業との関わりが少なくなった。 **●産業発展の基盤を支える産業の衰退・人材の不足** ・中小企業は技術・技能，経験則を集結してモノを作り，産業を底から支えている。しかし，中小零細企業の経営は厳しく，先行きが暗いので廃業する，あるいは，技能後継者がいないので，赤字が膨らむ前に事業をたたむという例が多い。産業構造を支える足元が崩れかかっている。 ・京都の伝統産業は付加価値率の高い産業だが，過去 35 年間において減少の一途を辿っている。 ・長い歴史，優れた技術を持ちながら後継者の問題で廃業，または倒産する企業もある。 ・シリコンバレー，ケンブリッジ，中国の研究所を訪れて感じるのは，日本のプレゼンスが着実に下がっているということ。留学生も減っている。
検討の方向性	**●付加価値を高めるためのしくみづくり** ・「未来への投資」という観点から，今後，京都がどんな産業を振興し，付加価値を得ていくかというメカニズムをここで審議して頂きたい。 ・70 年代に日本に追い上げられた時，アメリカは大胆な施策によってイノベーションを起こした。日本も力のある者が強固なプラットフォームを作らなければ太刀打ちできないと思う。 ・知的産業をどうやってつくるのか。これをきっちりと具体化していく必要がある。 ・ビジネスをデザインできるような地域になる必要がある。先端産業，伝統産業どちらにもいえる。

テーマ	主な発言の概要
検討の方向性	・インキュベーション，ポストインキュベーションのように，金融の果たす役割も変容を求められている。 ・ビジネスの仕方として部品単体で売るのではなく，システムとして付加価値を付け海外へ売っていくという視点が必要である。 ・ブランドだけではなかなか売れない。また，技術・品質・デリバリーだけでは売れない。 ・日本企業は製造過程で高い歩留まりを要求するが，最近のアジア地域では７割で判断する。日本人も７割で判断するという癖をつけることが必要。99%の確率で投資をしようとすると，時間がかかるか，投資をやめるしかなくなる。 **●市場の変化への対応（環境・高齢化・新興国）** **[総論]** ・世界各地の共通課題である環境・高齢化・人口減少はチャレンジの甲斐があり，チャンスでもあるテーマなので切り込んでいくのはどうか。 ・先端産業であろうと伝統産業であろうと，社会が変わることによって新しいものが出てくる。 **[環境]** ・低炭素社会に向けた取り組みは，人間の生き方や社会そのものを変えていく，ということになるのではないか。そうすると，システムや産業のあり方が変わり，産業が変わると産業を構成する部品も変わる。 ・環境関連等新たな分野への展開がイノベーションのポイントになるだろう。 ・環境問題がビジネスチャンスになっていると思う。若い世代は上の世代が思っている以上に環境に興味がある。 **[新興国]** ・市場の状況はもの凄く変化している。今まで日本製品の市場は富裕層をターゲットにしていた。しかしこれからは，所得階層ピラミッドのボトム階層のマスマーケットにどう参入するか考える必要がある。 ・国内は人口が減少し，マーケットが縮小しているならば，海外の元気な国に売っていかなければならない。京都の産業が海外とどう繋がりを持ち，ビジネスをしていくのか。 ・内需は期待できないし，アジア，海外に進出するべきだ。 **●中小企業の振興** ・京都市の産業ビジョンを考えるときに，ベースを支える中小企業にも目を向けて頂き，今回の構想に付加して欲しい。 **●人材育成** ・日本は人材育成，リーダー育成ができていない。産学連携でも考えるべきだが，教育の質的低下が挙げられる。 ・ものづくりとは知恵を出すことであり，ものをつくり，売って，サービスに知恵を出すことが必要である。また，知恵のある人間を産み，育てる事が必要である。 **●インフラ整備** ・京都の企業が海外へ出て行く窓口になる関西空港をハブ空港にして欲しい。関西空港の活用強化を望む。 **●伝統産業** ・ 京都の人が京都の伝統産業についてもっと知る必要があると思う。